

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 3271800389 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 桜江福祉会 | | |
| 事業所名 | 陽光苑グループホーム | | |
| 所在地 | 島根県江津市桜江町長谷2723番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年1月12日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年5月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 ワイエム | | |
| 所在地 | 島根県出雲市今市町650 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年1月31日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

陽光苑グループホーム職員一同は、利用者様が「家庭的な雰囲気」の中で、「生きがい」を感じ、「人間としての尊厳」を守られる生活が送れるように支援しています。そして、「人生の長さ」よりも「人生の質」を重視し、一日一日の「生活の質」を高めることを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定員が5名から9名と増床しており、訪問時は2名の入院があったため、7名の生活ぶりに接した。職員が目指す「家庭的な雰囲気」や「生きがい」は、利用者のそれぞれの家での生活や持ち前の好きなことなどを継続できるよう、こたつにいつでもあたるようなしつらえや、利用者の得意の民謡が披露できる場をともに作るなどして、実現している。毎朝の「日々の中で利用者が快の気持ちを持って、言葉に出していただけるよう」「利用者の希望・思いは本人が忘れてしまわないうちにかなえてあげたいという気持ち」などの理念を毎朝職員全員で唱和することで、介護のモチベーションを原点にもどす試みが、利用者の自然で穏やかななかにも、活動的な暮らしぶりにみえてくる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝、申し送り時に職員で理念を唱和している。また、いつも目につく場所に理念を掲げている。 | 毎日、起きる、新たなニーズや対応を振り返るためにも、理念を職員が意識に刻んでおり、緊張感のあるケアを目指している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域や地区のイベントに出かけたり、地域の運動会に参加したり、公民館行事に参加し、交流を深めている。 | 田植え囃子や神楽など、利用者の好みに合う催しに積極的に参加して、自然な笑顔や喜びを引き出すなど、地域とのふれあいの機会を作っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 2ヶ月に1回発行しているグループホームだよりを支所の掲示板へ掲示して認知症の理解や支援の方法を伝えている。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回会議を開催し、毎月の行事報告を行ったり、利用者様の状況を報告している。参加メンバーから質問・意見・要望をもらうようにしている。 | 定期的に開かれる運営推進会議では、利用者が増えたこともあって、リスクマネジメントについて、メンバーの意見をいただけるよう働きかけるなど、利用者主体の内容に心がけている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域包括支援センターの職員に2ヶ月に1回開催する運営推進会議への参加を依頼し、会議等で協力関係を築くように取り組んでいる。 | 利用者の抱える、さまざまな問題にも対応していけるよう、地域包括支援センターなどの市職員に、相談、会議などを行い、早期の解決が導けるよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年間計画の苑内研修として、マニュアルに沿って勉強会を行っている。毎日の業務の中でも、常に話し合い実践している。 | ホーム玄関や、部屋などにも、施錠はせず、利用者は、自由に行動できるようにしている。職員は利用者の特性を理解し、個別の見守りをする事で、身体拘束のないケアを実践している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年間計画の苑内研修としてテーマにあげ、正しい理解を持つようにしている。意識的・無意識的な虐待防止の為に、ケアの関わり方の方法について、随時話し合いを行っている。 | / | / |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」の小冊子にて職員の理解を深める様にしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は事前に関係機関より情報収集し、利用者様・ご家族様と面談を行い、不安・疑問点が理解できるよう話し合いを行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日常の関わりの中で聞いたり気付いたりした事を、朝・夕の申し送り時において話し合いをしている。また、面会や家族会の時にお聞きした意見を反映するよう改善に取り組んでいる。 | 家族や、知人などがホームに訪れた際には、利用者の部屋でゆっくりと話しやすい雰囲気をつくったり、職員にも、相談しやすい声かけを行い、思いや意見を吸い上げて、ケアの向上に生かしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 報告・連絡・相談を細めに行い、気付いたりしたことを朝・夕の申し送り時において話し合いを行い、改善に努めている。 | 職員が管理者などに、思いや意見を述べやすいよう、機会を捉えては、会話できるよう、つとめている。問題や意見が置き去りにならないよう、早期の対応に心がけている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の意見の聴取を細めに行い、適宜職場環境の改善に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員各自に応じた研修に積極的に参加する機会の確保をしている。また、それらの研修報告は、会議の中で発表してもらい、研修報告書が全職員が閲覧できるようにしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内にあるグループホーム、小規模多機能で構成する部会に出席し、情報交換・意見交換を持ち、ケアに活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の施設見学やこちらから訪問し、面談を行い、コミュニケーションを図り、要望を聞くようにしている。また、入居時は話し合う機会を多く作り、ご本人の思いを理解し、信頼を得ることに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約時に、ご家族様との面談を行い、不安や要望などを聞き、相談に応じている。入居当初は、密に電話連絡を行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時、利用者様・ご家族様の思い状況等を確認し、改善に向けた支援を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生の先輩であるという気持ちを持ち、尊敬・感謝を忘れず、日々お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面作りや声掛けをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人の誕生日会には、可能な限り一緒に参加していただき、共に喜び合っている。また、参加できないご家族様には、ご本人にお祝いの手紙を書いていただいている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人・知人の来所は自由であり、来所を歓迎することで、その関係が継続されるように努めている。また、電話の取り次ぎもやっている。 | ホームを訪れる利用者の地元の方、昔なじみの人に年賀状を書くよう促して、関係の継続をはかったり、遠方からの訪問者には、気軽に外出や外泊ができるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 1日の中で、同じ時間を共有し、歌やレクリエーション・外出・散歩等で関係を深めるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了した利用者様とご家族様にいつでも遊びに来ていただくよう、手紙を送っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で、言葉や表情などからその意見を推し測ったりしている。思いや暮らし方の希望などを明確に把握できない場合には、ご家族様や関係者から情報を得ている。 | 認知症の方特有の過去への回帰、回想などを会話の中から引き出すことで、利用者を理解し、その思いやニーズをケアに活かせるよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時、ご家族様より情報提供していただいたり、日々の関わりの中で、ご本人より伺い、職員間で共有できるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 経過記録、検討会議を元に、日々の観察を行い、一人ひとりの1日の暮らし方や生活のリズムを把握したり、できること・わかる力の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人様・ご家族様・主治医意見を聞き、検討会議で総合的に協議し、一人ひとりのその時点に沿った、個別具体的な介護計画を作成している。 | 職員全員がそろわなくても、数人ごとでも、ミーティングを随時開催することで、利用者の状況に応じて介護計画を評価し、必要な変更などを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録に日々の生活状況を記入し、職員間の情報共有を徹底している。介護計画に沿って実践されたかを日常的に記入し、介護計画に反映させている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 緊急時の病院受診や入院時に職員が同行し、柔軟な支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | JAボランティア・地区ボランティア(清掃・演芸など)を受け入れ協働している。また、小中学校の福祉体験を受け入れて交流している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 嘱託医に週2回往診により利用者様の健康管理を行っている。利用者様の変化や健康面で心配事ある場合、その都度相談を行っている。また、受診結果に関する情報の共有を行っている。 | 嘱託医の緻密な医療管理、指導により、病気の早期発見、早期治療につながったり、利用者、家族ともに、健康に関する安心感を得ることができる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者様の普段の状態や持病等をよく知っている同施設の看護師に日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応がとれる体制が確保できている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族様等と相談しながら病院の医療相談に対して、ご本人様に関する情報の提供や、ケアについて話し、スムーズな退院に繋がるように必要な支援を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時・入居中において、事業所が対応し得る最大のケアについて、家族へ説明している。 | 本人、家族とは、法人全体として対応できることを説明した上で、重度化や終末期のケアのあり方については、入所時から話し合っている。併設の特別養護老人ホームとの交流も日常的に行い、場合によっては入所なども検討している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署の協力を得て、年に1度心肺蘇生法・AED操作の講習を受けている。また、応急手当普及員の資格取得を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て、年に2回火災を想定しての非難訓練を行っている。訓練を行い、ご利用者様一人ひとりの避難方法を再確認している。 | 避難訓練を行うことで、普段とは違う緊急時の利用者の様子を観察し、落ち着き具合や歩行能力などを見つけ出すことができ、火災時に適切な誘導救助ができるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様に対しての言葉の内容や語調等が、利用者様の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねないように留意しながら、日々の支援を行っている。また、他のご家族様や外来者に対して。全職員がプライバシーの保護の徹底を図っている。 | 職員は、感謝の言葉を欠かさないように気をつけながら、利用者の誇りを守るように接している。ご本人にとっての流儀や大切なことなど価値観を受容し、あからさまにしたいくないことは、個室で、話しかけるなど、プライバシーを保護するよう努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様の意見や思いを大切に、分かりやすい言葉がけをしながら、自分で決めることが出来るよう支援している。表現するのが難しい方には、表情や行動の変化に気配りし、気持ちを組み取るようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様の生活パターンやリズムを把握しながら、自らの行動を優先し、柔軟に支援するように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴時に行う更衣は、本人の好みで選んでいただき、不十分なところや乱れは、さりげなく直している。男性のご利用者様の髭に関しては、自己表現の一つとして、本人の好みに応じた支援をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様の誕生日には、ご本人の好きなメニューを聞き、買い物に一緒に出かけ、食事作りをしている。また、日々の調理・後片付けなどは、利用者様個々の力を活かしながら、職員と一緒にやっている。週1回、利用者様と職員が同じものを楽しく食べている。 | 利用者と職員は同じテーブルで、和やかな雰囲気の中で食事が出来るよう努めている。準備や片付けも、利用者とともに行われている。食材や献立にまつわる話題づくりを行い、自然な会話で食事を楽しいものに行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の摂取量は、毎食記録をとり把握している。必要に応じて医療機関に相談を行っている。義歯の状態により、食事の形態を変えている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食毎に歯磨きの声掛けを行い、利用者様の力に応じた支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者様によって、トイレ誘導が必要な方には、さりげなく支援を行っている。夜間、紙パンツ使用の利用者様には、日中活動しやすいうように、布パンツとパッドの組み合わせにし排泄支援をしている。 | 利用者毎の排泄パターンを把握しており、トイレでの排泄に努めている。羞恥心に配慮して、パッド交換などを自室で行ったり、促しの声かけも他の利用者にとそれと悟られないよう、さりげなく行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の予防対策として、生活の中に散歩・体操を取り入れたり食材の工夫をしている。また、排便状態は把握しており、必要に応じて担当医や看護師から指示を仰ぎ対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 利用者様のタイミングに合わせて、入浴の声掛けを行い、満足で安全な入浴なるよう支援している。また、衣服を脱がれるときには、利用者様が羞恥心・負担感を生じないよう配慮している。 | 利用者の洗い方やスタッフへの希望など、思いやこだわりなどを十分に配慮して、入浴が保清とともに、家庭的な雰囲気の中でリラックスして楽しく過ごせるよう援助している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入床時間も個別に対応し、日中も居室で休まれたり、ソファーで傾眠されたりしている。夜間、安眠が出来るよう、無理のない程度に活動を促している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全職員が薬の内容を把握できるよう、個人の記録ファイルに閉じている。服薬により状況の変化が生じた場合には、すぐ担当医に情報提供し、指示を仰いでいる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活暦の中での特性を活かし、個別に声掛けをしている。日々のレクリエーション・外出等で気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 可能な限り、一日の中で短時間でも屋内から出る機会を作り、気分転換やストレスの発散を図っている。車椅子使用の利用者様にも、戸外へ出ることを積極的に支援している。 | ホームの周辺への外出は、日常的に行われているが、天候などで、外出を控えるときでも、隣接する法人建物内で活動するなど、ホーム内だけで過ごすことを避けるよう努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現金の管理の出来る利用者様には少額を所持され購入されている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や知人への年賀状を送る支援をしている。ご家族・知人からの電話を歓迎し、心ゆくまでお話ししていただいている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間には、季節の花や季節の飾りをしている。テレビの近くにソファやこたつを置きくつろいで過ごせるようにしている。 | 外の光や風景が間近に感じられ、食事の匂いがただよい、季節の花や節句にちなんだ置物やタペストリーなどが飾られており、利用者の五感にほどよい刺激になるような配慮がみられた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者様の性格に合わせ、他の方に配慮しながら、共有空間でのこたつでゆっくり過ごしていただくよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時、使いなれた家財道具を搬入していただき、好みの物を飾り、安心して過ごせるよう工夫している。 | 居室は清潔に保たれ、利用者の居心地の良さに配慮されている。ベッドや調度品などは、画一的で利用者の個性がいまひとつみられない。 | 利用者が個室においても、その人らしさを保ちながら、人生を過ごせるような個性的な部屋を、利用者とともにしつらえられるような取り組みを期待したい。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 物干しの高さを利用者様の干しやすい高さ調整したり、円背の利用者様には椅子に座って干していただいている。利用者様の活動性を維持する為に、車椅子や杖の状態に合わせて使用している。 | | |